

復興事業一覧及び主要事業概要

1. 復興事業一覧

大島町復興計画の期間と復興の柱ごとのスケジュール（大島町復興計画）

	前期 平成 26～28 年度	中期 平成 29～31 年度	後期 平成 32～35 年度
大島町復興計画	被災者の意向を尊重し、個々の被災状況に応じた生活再建の目途が立つことをめざします。 活気と魅力ある島の再生を図り、東京オリンピック・パラリンピック開催にあわせ「元気な大島」を発信します。 「復興でめざす島の姿 - 安心と笑顔があふれる美しい島 -」の実現 ①自然と共生する災害に強い島 ②自然や文化、人とのふれあいなど、心やすらぐ島 ③誰もが訪ねたくなる、移り住みたくなる、賑わいに溢れた島		
復興の柱1 被災者生活 再建支援	被災者への資金等の支援 住宅再建の支援 多様なサービスの提供 情報提供と相談体制の確立 (必要な時に必要な支援を継続して実施)		
復興の柱2 地域基盤・ インフラの 復旧	地域基盤の整備、インフラの復旧と機能強化 がれき等の撤去処分		
復興の柱3 産業・観光 復興支援	島内企業の早期再建と商工業の振興、農業の早期再建と振興、水産業の早期再建と振興、観光振興の推進		
復興の柱4 防災まちづくり の強化	台風 26 号に伴う豪雨災害の検証と地域防災計画の改訂、災害情報の連絡体制の再構築、災害対応力の強化、島内避難体制の再構築、避難施設の強化等、災害教訓の伝承と地域防災力の向上		
元町地区の復興 まちづくり計画	事業計画策定 住宅再建支援、生活道路・公園等の整備・大金沢流路改修		
【参考】 大島町基本構想 ・基本計画	第 5 次基本構想・基本計画 第 6 次基本構想・基本計画（平成 28～35 年度）		

大島町復興計画 復旧・復興事業一覧

復興の柱	主な施策	事業概要	実施期間				担当課	H27予算 (百万円)	平成27年度の進捗状況及び今後の見込み (件数、金額、作業内容等)	
			H26	H27	H28	H29～				
被災者生活再建支援	①被災者への資金等の支援									
	義援金の支給	義援金配分委員会で定められた対象への義援金の配分を行う。	○	○			福祉けんこう課	0	1世帯2名分から申請があり、27年度配分終了	
	災害弔慰金の支給	災害により死亡(又は行方不明)の方の遺族へ弔慰金を支給	○	○	△	△	福祉けんこう課	10	未申請分については、申請のあった段階で対応を図る 未申請者 1名のみ	
	遺児生活支援事業	土砂災害により、両親又はその一方が死亡又は行方不明となった児童の就学及び修学並びに生活の支援のため支援金を支給する。	○	○	○	○	福祉けんこう課	1	対象者 4名 1,560千円	
	児童生徒通学支援事業	被災児童の仮設住宅からの通学の支援をする。児童については通学バスで対応し、中学生はバス回数券を支給する。	○	○			教育文化課	2	対象者 スクールバス:9名、バス回数券:2名 ※27年度終了予定	
	②住宅再建の支援									
	被災者生活再建支援金(加算支援金)の支給	土砂災害で住宅が全壊又は大規模半壊した者が、新たに住宅を建設、購入、補修又は賃借した際に支給する。	○	○	○		福祉けんこう課	20	27年度実績(9月末現在) ・加算支援金:6件 ※H28.11.15まで支給申請受付 ・都制度支援金:なし ※H28.3.31まで支給申請受付(引続き28年度申請延長を要望予定)	
	大島町住宅再建支援補助金	被災者生活再建支援金(加算支援金)に加えて、町事業として、住宅再建(補修、建設・購入)のために必要な経費を支援する。	○	○	○		土砂災害復興推進室	30	27年度実績(9月末現在) 6件(購入3件 建築1件 修繕2件) ※平成28年11月15日まで受付	
	災害公営住宅建設事業	復興対策住宅(RC2階建 2棟24戸)建設 (家の上地区 1棟14戸、岡田地区 1棟10戸)	○	○			地域整備課	928	・復興住宅岡田地区 契約金額 284,443,480円(工期:平成27年3月5日から平成28年1月20日) ・復興住宅家の上地区 契約金額 348,254,180円(工期:平成27年5月20日から平成28年3月24日) ・9月18日に入居予定者を対象に説明会を実施	
	③多様なサービスの提供									
	応急仮設住宅管理	応急仮設住宅の浄化槽、受水槽、街路灯など共用部分を適切に維持管理する。	○	○			地域整備課	2	平成28年2月1日 復興住宅(岡田地区)入居開始 予定 平成28年4月1日 復興住宅(家の上地区)入居開始 予定 仮設住宅入居期間延長都へ依頼(4月24日まで) 入居者移転完了後、仮設住宅解体撤去。住宅敷地内現状復旧(28年度)	
	生活支援相談の実施	土砂災害の被災者の生活支援のため、社会福祉協議会に『生活支援相談員』を設置し、被災者の支援を実施する。	○	○	△		福祉けんこう課	6	・「こころとからだの健康相談」については、フォローが必要な方を中心に継続して実施 ・被災者生活支援連絡会を毎月開催し、情報の共有と支援の協力体制の構築を継続 ※平成28年度も引続き支援体制を検討していく	
	医療費一部負担金の減免	災害により直接負傷した被災者に対する治療費の一部負担金を減免し、生活再建に支障をきたさぬよう支援する。	○	○	△		住民課	-	ほとんどの被災者が完治に向かっているが、リハビリ等未だ治療を要する被災者を支援していく ※平成28年度も引続き支援体制を検討していく	
	負傷者通院費の補助	災害により負傷した被災者の治療に要する交通費を補助する。	○	○	△		福祉けんこう課	1	ほとんどの被災者が完治に向かっているが、リハビリ等未だ治療を要する被災者を支援していく ※平成28年度も引続き支援体制を検討していく	
	④情報提供と相談体制の確立									
	土砂災害復興推進室の設置	平成26年11月に課相当の組織を設置した。					土砂災害復興推進室	-	用地係を新規設置、室員増員	
	司法書士無料法律相談 電話による無料法律相談	東京司法書士会、第二東京弁護士会による無料法律相談を実施する	○	○	○	○	土砂災害復興推進室 総務課	-	定期的に、司法書士や弁護士による無料相談を実施	
地域基盤・インフラの復旧	①地域基盤の整備									
	町道災害復旧事業	元村三原山線道路(御神火スカイライン)ほか、被災した町道の復旧工事を行う。	○	○			地域整備課	940	御神火スカイライン他 27年度施工・復旧予定	
	災害復興事業に伴う用地測量	大金沢流路沿い町道整備及び神達地区都市計画公園整備に合わせて用地測量を実施する。	○	○			土砂災害復興推進室	30	神達地区都市計画公園整備における用地測量を27年度実施予定	
	元町地区雨水排水処理整備事業	元町地区内町道の排水構造物及び排水能力を調査し、大島支庁とも連携のうえ、排水整備計画を策定する。	○	○	○	○	地域整備課	40	調査、検討結果により整備工事を実施 ・詳細設計及び路線測量 平成27年8月10日～平成28年3月25日 ・排水施工改良工事施工 平成27年12月～平成28年3月末(予定)	
	②インフラの復旧と機能強化									
	庁舎自家発電設備改修事業	災害発生時に停電による業務の停滞を避けるため、自家発電能力の向上を図る。		○			総務課	5	・基本設計(4～7月) ・大型発電機及び庁舎改修工事(9月4日入札、工期:9月～28年5月) ※設置場所は、庁舎地下1階(旧ボイラー室)を予定。部屋の扉等を工夫し、一定程度の土砂や津波被害に耐えられるよう検討	
大島老人ホーム自家発電設備改修事業の助成	災害発生時の要配慮者の避難所として協定を締結している大島老人ホームにおいて、停電時の電力確保のため自家発電設備整備事業の助成を行う。		○			住民課	32	平成27年6月末設置完了		

復興の柱	主な施策	事業概要	実施期間				担当課	H27予算 (百万円)	平成27年度の進捗状況及び今後の見込み (件数、金額、作業内容等)	
			H26	H27	H28	H29～				
産業・観光復興支援	①島内企業の早期再建と商工業の振興									
	中小企業再建に対する金融支援	被害を受けた中小企業が早期復旧を果たせるよう、営業再開や経営安定に必要な資金に対して利子補給等により、負担軽減を図る	○	○	○	○	観光産業課	1	新規受付は平成28年3月31日まで (28年度以降については別途案内)	
	大島町中小企業再建支援補助	被害を受けた中小企業の事業再建のため必要な施設・設備の購入や修繕等に要する経費を補助する。	○	○			観光産業課	50	新築・購入 5件 14,000千円 修繕等 14件 9,175千円 ※平成28年3月31日まで (必要に応じて期間延長することもあり)	
	②農業の早期再建と振興									
	農地等災害復旧事業	土砂災害により被災した農地及び農業用施設の復旧を支援する。	○	○			観光産業課	39	・代替用地選定(第1～2四半期) ・実施設計(第2～3四半期) ・復旧工事(第3～4四半期)	
	③水産業の早期再建と振興									
	漁場災害復旧事業	大量の流木等が流れ込んだ元町弘法浜、前浜地域を、元の好漁場に戻すため、漁場内にある流木等を撤去し漁場の復旧を図る。	○	○	○	○	観光産業課	10	漁場災害復旧工事を実施(4/1～3/31)	
	漁業振興のための助成事業	被害の大きかった地区の稚貝放流について上乘せ補助を行う。	○	○	○	○	観光産業課	1	元町(5月28日 アワビ32,000個) 岡田(7月8日 アワビ14,700個、サザエ35,500個)、 見込元町(10`12月 サザエ42,000個)、野増(10`12月アワビ10,000個、サザエ30,000個) ・都災害配布 サザエ450,000個	
	つきいそ事業	災害により土砂等が流入した海域に、割栗石やコンクリート製平板礁を投入し、漁場造成を行う。	○	○	○	○	観光産業課	30	割栗石(自然石)3,000㎡(差木地)	
	漁村地域防災力強化改修事業	漁業協同組合が所有する共同利用施設の耐震診断を実施し、施設の耐震化を図り、災害時の避難場所等として利用する。	○	○			観光産業課	37	施設の耐震診断と耐震化工事を実施 (泉津荷捌施設施設、岡田畜養施設、野増倉庫施設、波浮畜養施設他)	
	④観光振興の推進									
	弘法浜遊泳場災害復旧事業	弘法浜及び隣接する湯の浜に流入した土砂の撤去等整備を実施	○	○	△		観光産業課	11	湯の浜を中心に土砂の撤去等整備を実施 27年度施工分については、7月に完了済み	
	大島町観光プール(仮称)整備事業	弘法浜プールに代わる、新たなプールを建設する。	○	○			観光産業課	357	建設工事中(工期:平成27年5月14日～平成28年3月20日) ※28年度夏季から運用開始	
	伊豆大島復興宣伝プロジェクト	世田谷区商店街連合会の協力を得て、世田谷区の商店街において『元気で伊豆大島！！感謝と復興』を掲げて復興宣伝プロジェクトを展開する。	○	○			観光産業課	-	2回実施予定 ・平成27年6月1日～30日 第1期終了 ・平成28年1月15日～2月15日 第2期実施予定	
	2016アジア自転車競技選手権日本大会開催	2016年1月アジア自転車競技選手権日本大会のロードレースを大島町西海岸コースにおいて開催する。土砂災害からの「復興」の一環として本大会を通じ、全国のサイクリストを受け入れる「自転車の聖地」の発信を目指す。	○	○			観光産業課	70	・実行委員会の開催(3回 4月、11月、3月) ・住民への周知、受入態勢の整備等、開催に向け準備 ・平成28年1月19日～24日 大会開催	
	岡田港船客待合所施設整備事業	岡田港船客待合所施設整備に合わせ整備される大島町交流施設を中心に、観光客に島の魅力を伝える環境づくりを行う。			○	○	政策推進課	135	事業執行に向けて必要な予算要求を行う。	
防災まちづくりの強化	①台風26号に伴う豪雨災害の検証と地域防災計画の改訂									
	第三者調査委員会の設置	今後の防災対策の強化に向けて、今回の災害の対応状況などを第三者により公正中立かつ客観的な立場から調査・分析を行う。		○			土砂災害復興推進室	22	準備会1回+委員会5回開催予定(詳細は別紙報告資料を参照) ・10月3日 準備会開催 ・10月中旬に第1回委員会を開催予定 ・27年度内に報告書を完成し、委員長が町長へ手交	
	地域防災計画の策定	土砂災害防止法に基づく区域指定により、風水害編の見直しを行い、各災害を踏まえた地域防災計画の策定を行う。		○	○		防災対策室	-	土砂法による区域指定の結果を踏まえ、地域防災計画「風水害編」の改訂に向けた検討に着手し、早期の見直しを実施する。	
	②災害情報の連絡体制の再構築									
	防災行政無線設備等更新事業	老朽化の著しい岡田中継所の基地局設備について、平成27年度にアナログにて更新し、システムの安定化を図る。役場内操作卓についても、老朽化が著しいため、アナログ・デジタル兼用による設備の更新を行う。		○			防災対策室	64	防災行政無線岡田中継所及び役場内防災行政無線操作卓について、27年度中の設備更新を行う。	
	③災害対応力の強化									
	消防無線デジタル化	情報伝達機能を強化するため、消防無線のデジタル化を行う。	○	○			消防本部	574	大島公園、勤労福祉会館他で実施予定 契約金額:376.920千円 工期:3月23日まで	
④島内避難体制の再構築										
	避難計画の策定	大島町土砂災害避難行動計画(暫定版)を策定する。土砂災害防止法に基づく区域指定後、本計画を策定する。	○	○			防災対策室	24	4月28日の基礎調査結果の公表を受け、暫定版であった土砂災害避難計画及びハザードマップの見直しを実施 ・ハザードマップ:10月1日以降、全世帯へ配布予定 ・避難計画:年内に策定予定 策定後、関係機関へ配布及び大島町ホームページに掲載予定	

復興の柱	主な施策		事業概要	実施期間				担当課	H27予算 (百万円)	平成27年度の進捗状況及び今後の見込み (件数、金額、作業内容等)
				H26	H27	H28	H29～			
防 災 ま ち づ く り の 強 化	⑤避難施設の強化等									
		避難所の整備	・避難者のより良い避難生活のため、各避難所の環境整備を行う。また、土砂災害の避難所として適さない場所に避難所がある地域について、新たに避難所の整備を行う。	○	○	○		防災対策室	189	・野増地区及び間伏地区について、新たな避難所建設のための用地を取得したが、両地域とも土砂災害警戒区域内にあるため、当初の建物構造の見直しが必要な状況 ・基本設計の変更及び地質調査の実施が必要であり、事業実施期間を27年度から28年度にかけて2ヵ年で実施する。
		庁舎センター系統空調設備更新	開発総合センター1階から3階までの空調機、室内外機の更新を行う。		○			教育文化課	12	平成27年4月改修工事 6月末工事終了 工事請負費12,884,940円
		「防災の手引」の作成	住民等に分かりやすい、地震・津波・火山噴火・風水害等の災害に対応する「防災の手引」を作成し、日頃から防災意識の向上を図る。	○	○	○		防災対策室	-	平成27年4月に「防災の手引」(地震・津波編)及び「津波避難マップ」を作成 今後、風水害編及び火山噴火編について、順次作成に着手する。
	⑥災害教訓の伝承と地域防災力の向上									
		追悼式の開催	犠牲者の冥福を祈るとともに、災害に強い、安心して住み続けられる町の復興をめざし、またその教訓を後世に語り継ぐため追悼式等を行う。	○	○	○	○	総務課	4	平成27年10月16日 島内関係機関とで追悼式、献花台での黙祷・町長の誓いの言葉・献花を実施予定
		災害記録誌作成	平成25年台風26号による大島町土砂災害の災害記録誌を作成し、後世に残し、今後の防災に対する教訓・災害対応への一助とする。		○	○		防災対策室	-	当時の資料を整理していく。また、今後、内容や構成についての検討を庁内にて協議することとする。
		社会科副読本改訂事業	平成26年度社会科副読本改訂委員会を開催し、台風26号災害を掲載した副読本を平成27年度に配布する。	○	○			教育文化課	-	小学校3年生、4年生へ改訂版を配布

大島町復興計画推進委員会

復旧・復興事業報告

土砂災害復興推進室

平成 25 年伊豆大島土砂災害第三者調査委員会

1 基本の考え方

○ 調査の目的: 当日の防災対応、事前の防災対策等に関して、

① 事実を明らかにする

② 分析して教訓を導き出し、今後の防災対策に活かす

○ 公正性・中立性: 調査はすべて委員会の審議・決定に基づく(町は関与せず、情報提供などで最大限協力)

○ 調査の対象範囲:

① 発災前後(概ね、発生前日～発災後に救出救助体制が整い本格的な救助活動が開始されるまで)の状況

・ 大島町その他関係機関の対応状況

・ 大島町の住民等(特に被災地区住民等)の対応状況

② 大島町その他関係機関の災害対応に関する事前対策(災害対応のための計画・マニュアル、教育訓練の状況等)

③ 大島町の住民等の防災意識・防災対策の実施状況

2 委員会メンバー

委員長	田中 淳	東京大学 総合防災情報研究センター センター長・教授
委員	岩田 孝仁	静岡大学 防災総合センター教授
	黒田 洋司	(公財)消防科学総合センター 研究開発部長
	鈴木 雅一	東京大学 名誉教授
	松尾 一郎	環境防災総合政策推進機構 環境・防災研究所 副所長

3 進め方

○ 準備会1回＋委員会5回開催予定

【委員会スケジュール】

	開催時期	主な内容
準備会	平成27年 10月3日（土）	* 委員会の目的、検証方針・検証対象等の確認 * 情報取扱いの決定 * 調査範囲・調査内容等の検討 ・ 文献資料等の収集対象、抽出すべき情報等 ・ 住民アンケート調査内容（実施する場合） など
第1回	10月中旬	* 文献資料等の一次収集・整理結果の確認・検討 * 今後の調査（特に、関係者聴取の対象、内容、方法等）の検討 * 被災現地視察
第2回	11月上～中旬	* 関係者等聴き取り結果の確認 （さらなる調査の必要性有無、その内容等の検討を含む） * 分析方針、分析内容の検討
第3回	12月上～中旬	* 調査結果（事実情報）とりまとめ結果の確認・検討 （さらなる調査の必要性有無、その内容等の検討を含む） * 分析方針、分析内容の検討
第4回	平成28年 1月中～下旬	* 分析とりまとめ（案）の検討 ・ 事故の要因（直接要因、背後要因） ・ 再発防止対策（提言） など * 報告書骨子案の審議
第5回	2月下旬	* 報告書案の審議 ※その場で修正点を確定の上、座長（委員長）預かり ⇒後日、報告書を完成し、町長に委員長が手交

大島町復興計画推進委員会

復旧・復興事業報告

防災対策室

土砂災害警戒区域指定を受けた警戒避難体制及び避難計画の改訂

1 事業概要

平成27年4月28日に東京都が公表した土砂災害のおそれのある警戒区域等の調査結果、6月に告示された特別警戒区域（レッドゾーン）と警戒区域（イエローゾーン）の指定を受け、平成26年5月31日に配布した避難の暫定基準及びハザードマップを見直し、新たな避難基準と暫定版のハザードマップを作成するとともに、避難計画を改訂する。

2 実施内容等

(1) 避難所の見直し

- ・特別警戒区域（レッドゾーン）が指定された区域内にある避難所の見直しを行った。
- ・見直し状況は表1のとおり

(2) 大島町土砂災害ハザードマップの改訂

- ・平成27年4月28日に公表された東京都の「土砂災害（特別）警戒区域 土石流及び急傾斜地」を受け、暫定版の「大島町土砂災害ハザードマップ」を作成し、7月10日に全世帯に配布。10月1日以降、確定版のハザードマップを全世帯に配布

(3) 暫定避難基準の解除

- ・今回の土砂災害の発生後、大雨警報・注意報及び土砂災害警戒情報の発表基準については、通常の8割に引き下げた暫定基準で運用してきたが、通常基準程度の降雨を複数経験しても新たな災害が発生していないことや、応急対策工事の完了等、土砂災害警戒区域等の指定により大島町では新たな警戒避難体制が整備されたこ

とを受け、平成27年7月30日14時をもって暫定基準は廃止され、通常基準となった。

(4) 避難計画検討状況と策定の予定

- ・避難計画の策定に向け、委託契約締結（平成27年6月26日から11月30日）
- ・策定後、関係機関への配布及びホームページに掲載予定

表1 土砂災害時の指定避難所の見直し状況(赤字:変更箇所)

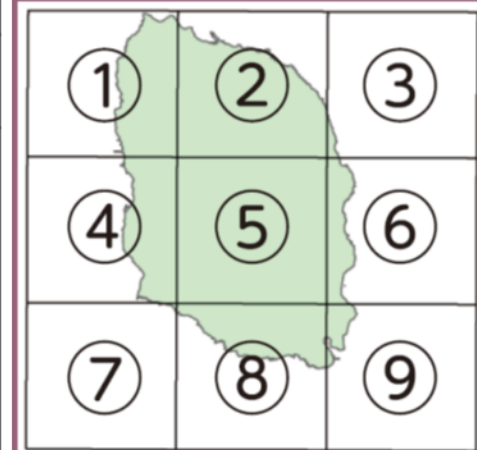
地区名	見直し前 (平成26年5月31日時点)	見直し後 (平成27年4月28日現在)
岡田・泉津	・第二中学校体育館 ・さくら小学校体育館 ・泉津地域センター	・北の山公民館 ・第二中学校校舎2階・3階 ・泉津地域センター体育館
波浮港	・波浮港老人福祉館 ・波浮港地域センター	・波浮港老人福祉館 ・波浮港地域センター体育館
クダッチ	・クダッチ老人福祉館 ・つつじ小学校校舎 ・第三中学校体育館 ・大島海洋高校体育館	・クダッチ老人福祉館 ・第三中学校体育館 ・大島海洋国際高校体育館
差木地・間伏	・差木地公民館 ・差木地地域センター	・差木地公民館 ・差木地地域センター体育館
野増	・野増地域センター ・野増会館	・野増地域センター2階
元町	・大島町開発総合センター ・大島高校体育館	・大島町開発総合センター ・大島高校体育館
北の山	・北の山公民館 ・北の山地域センター	・大島高校体育館 ・北の山公民館 ・北の山地域センター体育館
要配慮者避難所	・大島けんこうセンター	・仮設住宅集会所
要配慮者二次避難所	・大島老人ホーム	

土砂災害警戒区域等警戒避難体制の基準

平成27年4月28日現在

特別警戒区域内(レッドゾーン)		気象情報及び 土砂災害警戒判定 メッシュ情報	警戒区域内(イエローゾーン)	
町民の行動	大島町の対応		大島町の対応	町民の行動
気象情報や防災行政無線放送に注意	注意喚起の放送	・大雨注意報 ・大雨注意報の土壌雨量指数基準超過 ■	注意喚起の放送	気象情報や防災行政無線放送に注意
要支援者など、避難に時間のかかる方で、避難を希望する方は、避難を開始。それ以外の方は、避難準備	避難準備情報の発表 要支援者への支援開始	・大雨警報(土砂災害) ・大雨警報の土壌雨量指数基準を超過 ■		
避難を開始	避難勧告の発令	・土砂災害警戒情報 ・予想で土砂災害警戒基準を超過 ■	避難準備情報の発表 要支援者への支援開始	要支援者など、避難に時間のかかる方で、避難を希望する方は、避難を開始 それ以外の方は、避難準備
避難が完了していない方は、直ちに避難 危険が差し迫っている場合、 生命を守る行動を取る	避難指示の発令	・土砂災害警戒情報 ・実況で土砂災害警戒基準を超過 ■	避難勧告の発令	避難を開始
		伊豆大島における土砂災害と雨量の関係に知見に基づく雨量が予想されるまたは実況で達した場合	避難指示の発令	避難が完了していない方は、直ちに避難。危険が差し迫っている場合、生命を守る行動を取る。

土砂災害警戒判定メッシュ情報



メッシュ情報の見方

- 実況で土砂災害警戒基準を超過
- 予想で土砂災害警戒基準を超過
- 大雨警報の土壌雨量指数基準を超過
- 大雨注意報の土壌雨量指数基準を超過
- 大雨注意報の土壌雨量指数基準未滿

避難勧告等を判断する防災気象情報の種類

- 【大雨注意報】
防災体制の設定、避難準備情報の発令の判断材料とします。
- 【大雨警報(土砂災害)】
避難準備情報等の発令の判断材料とします。
- 【土砂災害警戒情報】
避難勧告及び避難指示の発令の判断材料とします。
- 【記録的短時間大雨情報】
避難勧告及び避難指示の発令の判断材料とします。
- 【大雨特別警報】
避難勧告・避難指示の対象地域の再検討の材料とします。
- 【土砂災害警戒判定メッシュ情報】
避難準備情報、避難勧告及び避難指示の発令の判断材料とします。
- 【東京都が提供する土砂災害危険度を詳しく示した情報】
避難勧告等の発令の材料とします。

避難行動の考え方

- 【避難準備情報】
災害の発生する可能性が高まった状況であり、避難行動要支援者の方は避難を開始します。また、一般の方は、家族との連絡や非常用持出品の用意など避難の準備を開始します。
 - 【避難勧告】
災害の発生する可能性が明らかに高まった状況であり、一般の方々は、計画された避難所へ避難を開始します。
 - 【避難指示】
前兆現象の発生や災害の発生する危険性が非常に高い状況であり、避難中の方々は確実に避難行動を完了してください。
- ※生命を守る行動：土砂災害においては、基本的に早めの立ち退き避難を行う必要がありますが、外にでるのが危険な場合などは、十分な耐力を有する鉄筋コンクリート造等の建物の上階への屋内安全確保(垂直避難または待避)の対応をとってください。

基準の留意事項

- 気象庁が発表する気象情報は、大島町全域が対象となります。町が行う**避難勧告などの発令**は、土砂災害警戒判定メッシュ情報を基に、**どの地域に危険性があるか**確認して、判断します。土砂災害警戒情報などが発表されても、大島町全域に避難勧告などが発令されるわけではありません。
- 台風の接近で暴風、雨の状況等で避難が難しいときは、基準より早く避難行動を行う場合があります。また、気象警報が発表されても実況で降水量が少ない場合は避難勧告などが発令されない場合があります。
- 地区によっては、避難所が数箇所ありますが、避難の勧告・発令の際には対象地域と避難所を防災行政無線放送、Twitter、テレビのデータ放送等で周知します。

避難準備と避難の心得

- 避難所、経路、自宅や周辺の危険個所の確認をしておきましょう。
- 避難するときは防災行政無線放送の内容や消防団員の指示などにしたがって避難行動をしてください。
- 隣近所で声を掛け合い、高齢者などの安全に配慮してください。
- 逃げ遅れた場合、崖崩れや沢の氾濫が発生しているときに外へ出ると危険な場合もありますので、近所の頑丈な建物の2階など安全な場所へ避難するなど身の安全を守る行動をとってください。
- 崖崩れなどの前兆現象には、地鳴り、山鳴り、石のぶつかる音、落石、地面のひび割れ、盛り上がり、水の濁り、斜面からの噴出しなどがあります。現象があった場合は、直ちに避難してください（前兆がない場合もあります）。
- 警戒区域以外でも、崖、沢などが近くにある場合は、日頃より前兆現象などに注意し、身を守る行動を確認しておきましょう。

備蓄・非常時持ち出し品リスト

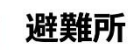
●いざというときに支障がないように、食品類の賞味期限や持出用品の不備を定期的に点検しましょう。また、自宅だけではなく、職場などにも準備し、いつ起こるかわからない災害に備えることも大切です。

●各避難所にはアルファ化米、カップラーメン、水、安眠マット、毛布などは用意していますが、各ご家庭でいざという時に何が必要か話し合っておき、必要な持ち出し品を整理しておきましょう。

☐	貴重品	現金（小銭も）・貯金通帳・印鑑・身分証明書・権利書 など
☐	食料	簡易食料（乾パンなど）・缶詰・レトルト食品・アレルギー対応食品 など
☐	飲料水	ペットボトル入り飲料水 など
☐	食事用具	皿・コップ（紙、プラスチック）・割り箸・スプーン など
☐	日用品	ポリ袋・ライター・ヘルメット（防災頭巾）・笛・ブザー・万能ナイフ・缶切り・包装用ラップ・水筒・カイロ・ティッシュ・ウエットティッシュ など
☐	照明・情報	懐中電灯（予備電池も含む）・携帯電話・充電器・携帯ラジオ（予備電池も含む）・メモ帳・筆記用具・家族、親族、知人連絡先一覧 など
☐	応急医薬品	救急セット・常備薬・持病薬・三角巾 など
☐	衣類・タオル	下着・靴下・軍手・雨具・運動靴・タオル など
☐	その他	粉ミルク・ほ乳瓶・離乳食・紙おむつ（乳幼児、高齢者用）・おしりふき・生理用品 など



元町 (2)

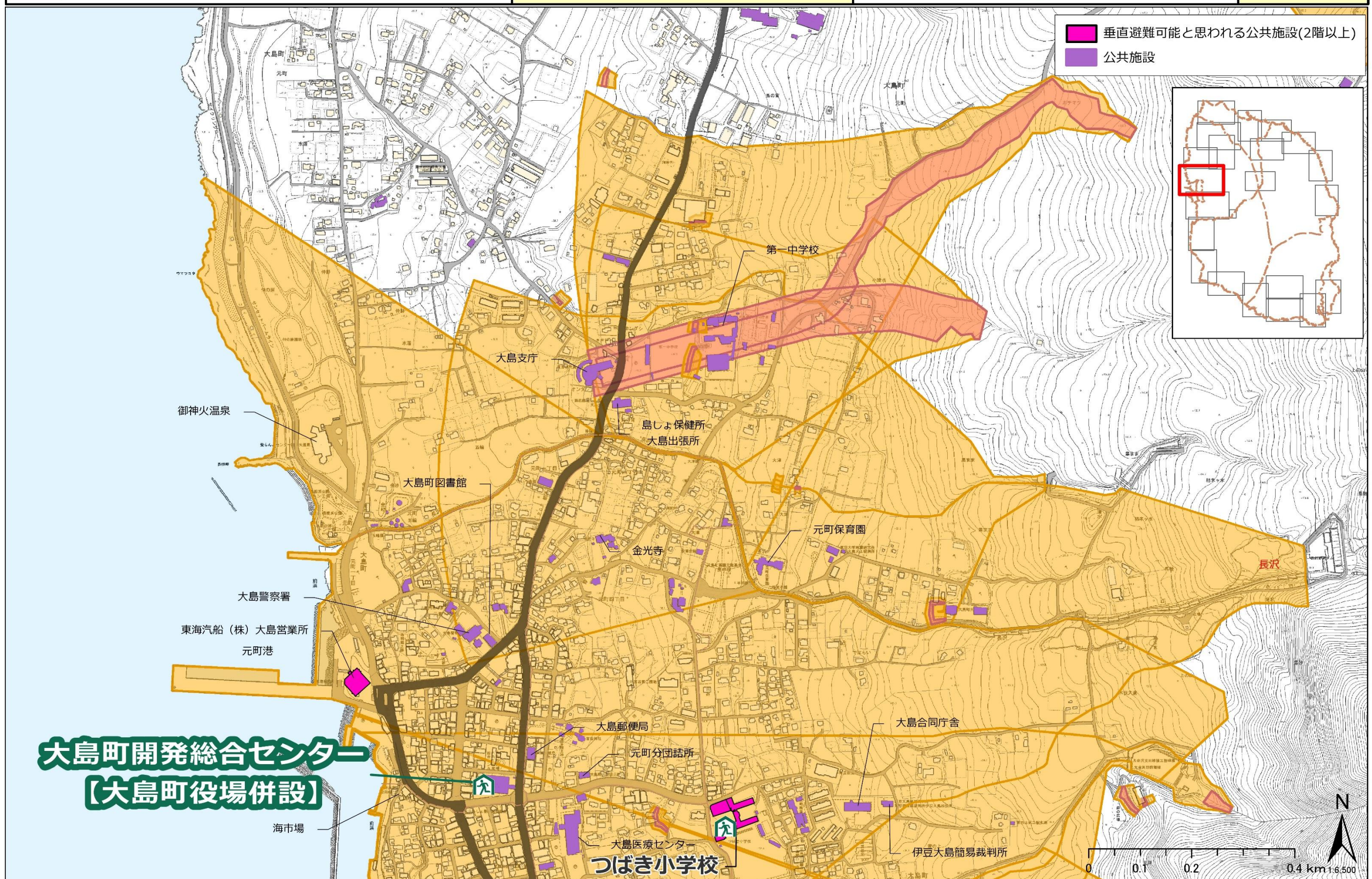


 **土砂災害特別警戒区域**

 土砂災害警戒区域

大島町

平成27年(2015年)
10月1日現在



「この地図は、東京都縮尺2,500分の1の地形図を使用して作成したものです。(承認番号):MMT 利許第23029号-7」

制作：株式会社オリエンタルコンサルタンツ



大島町土砂災害ハザードマップ

元町（3）

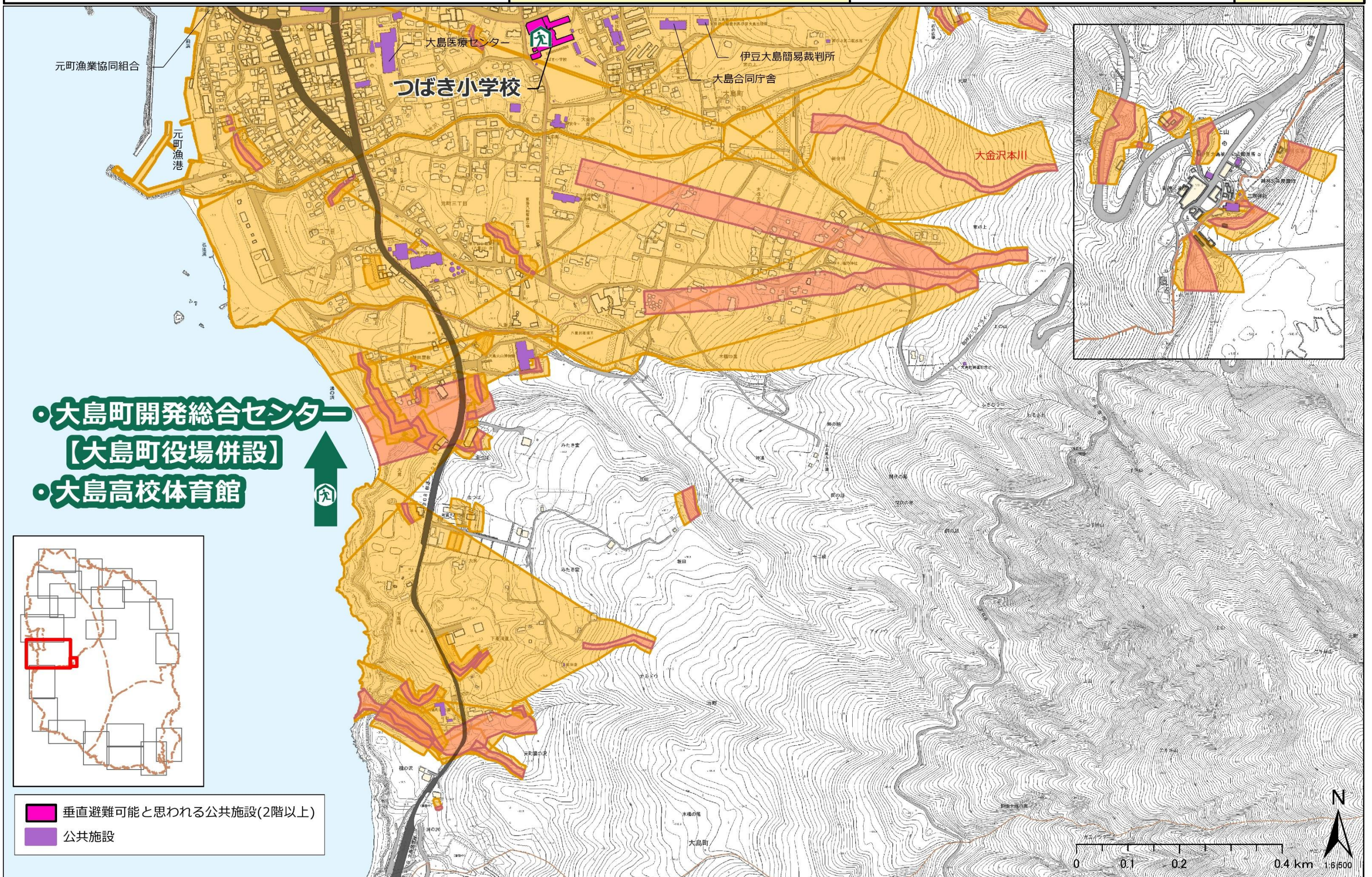


避難所

土砂災害特別警戒区域
土砂災害警戒区域

大島町

平成27年(2015年)
10月1日現在



「この地図は、東京都縮尺2,500分の1の地形図を使用して作成したものです。(承認番号):MMT 利許第23029号ー7」

制作:株式会社オリエンタルコンサルタンツ

大島町復興計画推進委員会

復旧・復興事業報告

観光産業課

大島町観光プール(仮称)建設工事・弘法浜こどもプール設置

1 事業概要

平成 25 年に発生した台風 26 号の土砂災害によって流出した弘法浜プールの再建に伴い、大島町観光プール（仮称）を新設する。

2 実施内容等

(1) 工事場所 東京都大島町元町 2 丁目 20 番 1 (旧パレラメール跡地)

(2) 敷地面積 7,410 m²

(3) 工事概要

- ・ 管理棟 RC 造平屋建 建築面積 207.10 m² 延べ面積 162.00 m²
- ・ 競技用プール兼成人用プール (458 m²) 水深平均 1.1~1.3m、FRP サンドイッチパネル 25m×16.4m (7 コース)、12.0m×4.0mサブプール付
- ・ 子供・幼児プール (143.39 m²) 水深 0.7m及び 0.5mFRP サンドイッチパネル、キノコ形噴水及び子供用ウォーター滑り台付
- ・ 日除けパーゴラ・シェルター 5 基 他

(4) 工事期間

平成 27 年 5 月 14 日 ～ 平成 28 年 3 月 20 日

※平成 28 年夏季から運用開始

3 弘法浜こどもプールの設置

平成 27 年度の夏季対策として弘法浜に子供プールを特設し子供の遊び場所を確保するための事業を実施した。

(1) 設置期間

平成 27 年 7 月 18 日～平成 27 年 8 月 23 日

(2) 設置場所

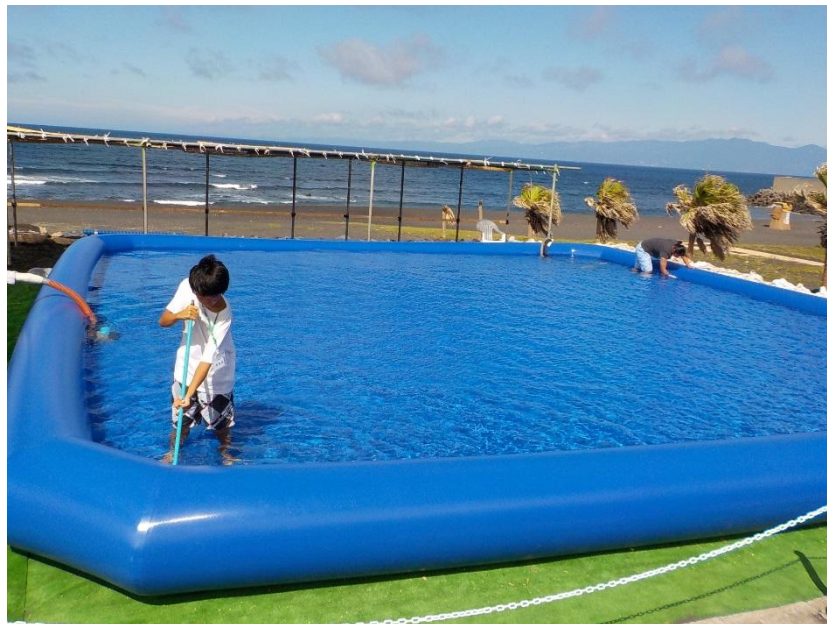
弘法浜の砂浜部分（旧プール跡地北側）

(3) 運営方法

小学生以下・保護者同伴での利用を前提とし、監視員 1 名を常駐

(4) 来場者数

開設期間中来場者 2, 3 8 7 名 （一日平均 64 名、一日最大 169 名）



大島町復興計画推進委員会

復旧・復興事業報告

政策推進課

ジオパーク専門員（地域おこし協力隊員）

1 概要

- ・ 新しい発想と行動力をもっておこなう島おこし活動によって、大島の発展を図ることを目的とし、平成27年6月1日に大島町地域おこし協力隊設置要綱を制定
- ・ まずは地域おこし協力隊制度の趣旨を鑑み、多くの住民と連携しながら広い分野で活動できるジオパーク専門員を、隊員第1号として7月1日から採用

2 主な活動内容

- 伊豆大島ジオパーク基本計画策定
 - ・ ジオパーク活動を通して目指す伊豆大島の将来像と、それを達成するための実施方針を明確化する
- 推進体制の見直し
 - ・ 関係機関・地域団体・住民の連携体制の充実化と、主体的かつ持続可能な運営体制の確立を目指した見直しを行う
- 地域内の普及活動
 - ・ 夏まつり等の地域イベントへの参加、町議会議員説明会の実施等
- 保全管理計画の策定
 - ・ 環境省との連携事業において、伊豆大島の地域資源の現状を把握し、保全管理ルールを策定するとともに、町民の保全意識の向上を目指す
- 公式ジオガイド制度の構築
 - ・ 質の高いガイド活動を行う公式ジオガイドの養成から認定および活用システムの構築を図る
- 災害に備えた取り組みの充実化
 - ・ 土砂災害斜面崩壊箇所の植生回復モニタリング調査、三原山噴火 30 周年事業の企画提案から準備を行う

3 今後の展望

これからの島おこしのために、今後も出来るだけ多くの分野で地域おこし協力隊を導入し、定住促進や地域の振興に資する体制を整備していく必要がある

大島町復興計画推進委員会

復旧・復興事業報告

観光産業課

伊豆大島復興宣伝プロジェクト

1 事業内容

- 世田谷区商店街連合会の協力を得て、世田谷区の商店街において『元気です伊豆大島！！感謝と復興』を掲げて復興宣伝プロジェクトを展開

- 27年度は第1期、第2期の2回開催予定

2 第1期「世田谷区地域連携バージョン」開催概要

- 期間：平成27年6月1日～30日

- 参加商店街：太子堂商店街振興組合、太子堂中央商店街振興組合、下の谷商店街、三軒茶屋銀座商店街振興組合、三軒茶屋商店街振興組合、エコー仲見世商店街、すずらん通り商店街、遊楽商業協同組合

- 展開詳細：

- ① チラシ兼応募用紙を各商店街に2,000枚配布（計16,000枚）
- ② 500円以上お買い上げの方に、チラシ兼応募用紙を配布（応募件数1,332枚）
- ③ 当選者の方に、目録（大島の旅）を贈呈（35組70名）

3 第2期「世田谷区全域バージョン」開催概要（予定）

- 期間：平成28年1月15日～2月15日

- 参加商店街：世田谷区102商店街中、30商店街（予定）

- 展開詳細：第1期と同様の内容のほか、5商店街での物産展の設置を予定



「伊豆大島の旅」募集チラシ A5 版

A 面・B 面



三茶から!
伊豆大島
IZU OSHIMA
復興応援プロジェクト

2015年
6月1日 ▶ 30日 抽選で35組70名様
伊豆大島の旅ご招待

500円以上お買い上げのお客様の中から

**伊豆大島施設利用
優待券
付き**
（となたでも
ご利用いただけます）

開催商店街
エコー仲見世商店街
三軒茶屋銀座商店街振興組合
三軒茶屋商店街振興組合
下の谷商店街

すずらん通り商店会
太子堂商店街振興組合
太子堂中央商店街振興組合
遊楽商業協同組合（ゆうらく通り）

500円以上お買い上げのお客様の中から
抽選で35組70名様

伊豆大島の旅ご招待
伊豆大島 1泊2日（2食付き・高速船往復券込）

応募方法
下記に所要事項をご記入の上、
切り取って各商店街に設置（右記参照）の
応募箱にお入れください。

応募期間
2015年6月1日（月）～6月30日（火）

当選発表
2015年7月上旬頃に当選通知の発送を
もって代えさせていただきます。
旅の詳細もあわせて発送いたします。

**伊豆大島 施設利用
優待券**
当選者に限らず、ご自身の応募用紙（券紙）1枚につき
2名様まで下記の施設でご利用いただけます。
有効期限：2015年9月30日
御神火温泉：入浴
ばれ・らめーる（貝の博物館）：入館
火山博物館：入館

開催商店街及び、応募箱設置店舗一覧

- エコー仲見世商店街
長栄堂印刷
- 三軒茶屋銀座商店街振興組合
むねちか
- 三軒茶屋商店街振興組合
茶処 とみなみ
- 下の谷商店街
昭和青果
- すずらん通り商店会
松竹駐車場 ※駐車場のため、車には十分注意して下さい。
- 太子堂商店街振興組合
佐藤青果店
- 太子堂中央商店街振興組合
CUT SALON LONG
- 遊楽商業協同組合（ゆうらく通り）
食育おさか・足立商店

※応募用紙の設置店舗は各店舗の都合により、右記の通りでない場合があります。
※各店舗の応募用紙の設置状況は随時変更いたします。

招待旅行に関する問い合わせ
(一社) 東京諸島観光連盟 03-3436-6955
(9:30～17:30 上・日・祝日休)

※本チラシは伊豆大島振興会、エコー、エコー仲見世商店街、三軒茶屋銀座商店街振興組合、三軒茶屋商店街振興組合、下の谷商店街、すずらん通り商店会、太子堂商店街振興組合、太子堂中央商店街振興組合、遊楽商業協同組合の共同制作です。

応募用紙

所要事項記入欄		
お名前	フリガナ	年齢 性別
電話番号	() - ()	
住所	〒	
上記の開催商店街の中からご利用された商店街名をご記入下さい。		

※ご提供いただいたお客様の個人情報は当選通知のために利用させていただきます。



（左・上）三軒茶屋商店街振興組合の様



（右）エコー仲見世商店街の様子

2. 被災者の生活再建の進捗状況について

1) 住宅再建状況

①住宅再建の状況

	大島町住宅再建支援補助金実績		
	26 年度	27 年度 (※1)	合計
全数	7	6	13
内訳	購入 3 建築 2 修繕 2	購入 3 建築 1 修繕 2	購入 6 建築 3 修繕 4

※1 平成 27 年度実績は 4～9 月実績を計上

年月（現在）	平成 26 年 3 月末（当初）	平成 27 年 4 月 1 日	住宅再建意向
世帯数	37	32	災害公営住宅 入居希望 21 世帯 (建設戸数 24 戸)
人数	86	76	

②応急仮設住宅入居世帯の住宅再建

2) 中小企業の再建状況

	中小企業支援補助金実績		
	26 年度	27 年度 (※1)	合計 件数
全数	20	19	39
内訳	新築、購入 6 修繕 14	新築、購入 5 修繕 14	新築、購入 11 修繕 28

※1 平成 27 年度実績は 4～9 月実績を計上

3) 心身の状況

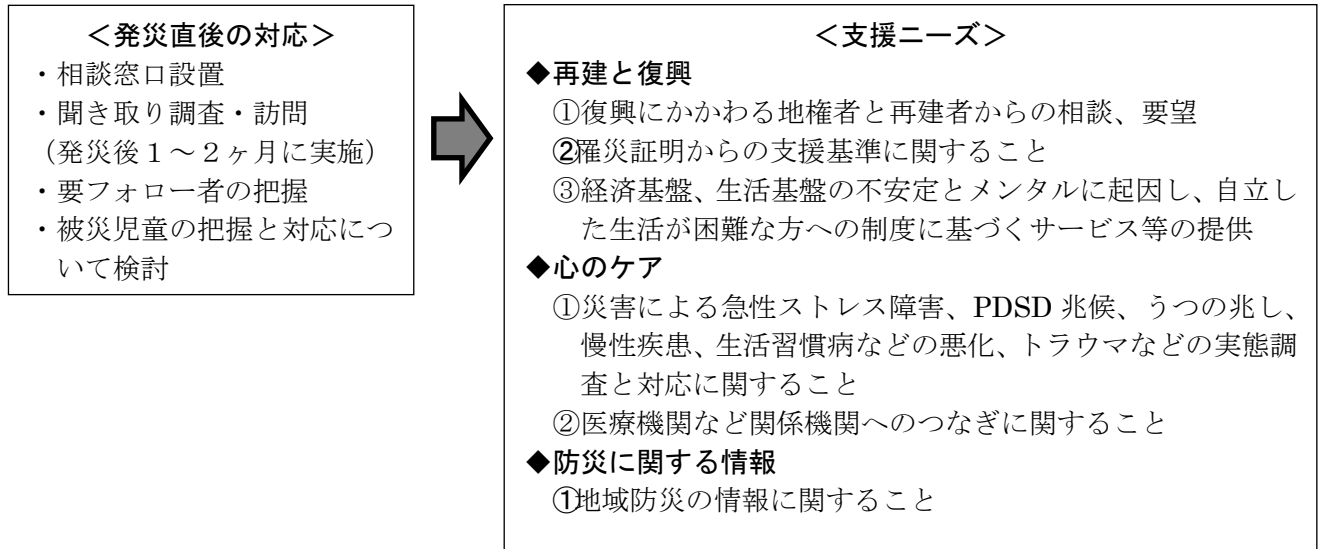
①被災者支援担当の体制整備

- ・平成 26 年 4 月設置
- ・大島町、東京都、社会福祉協議会等による横断的な組織構成
- ・毎月 1 回の定例会により情報共有と必要な支援内容を検討、実施につなげる

<大島町被災者生活支援連絡会>

大島町	東京都	その他
・福祉けんこう課 (子ども家庭支援センター) ・土砂災害復興推進室	・大島支庁総務課福祉係 (福祉事務所) ・島しょ保健所	・大島社会福祉協議会 (生活支援相談員) ・地域民生委員

②発災直後の対応から得られた支援ニーズ



③現在実施している対応

実施事項	概要
被災者支援計画シートの作成 定期訪問・個別相談	・被災者の個別の状況を共有し、支援方針を検討する ・定期訪問と個別相談から被災者支援計画シートの支援方針の見直し（訪問回数・訪問機関など）と要フォロー、経過観察、機関移行（医療含む）の判断のもと、キーパーソンとなる機関の確定と、担当者別支援計画シートを作成
こころとからだの健康調査「スクリーニング質問票」実施 (福祉けんこう課・島しょ保健所)	・スコア集計後、ハイスコア者を抽出し定期訪問対象者として支援
児童、生徒の心のケア	・各学校、保育所などにおいて定期的にスクールカウンセラー、臨床心理士などが対応

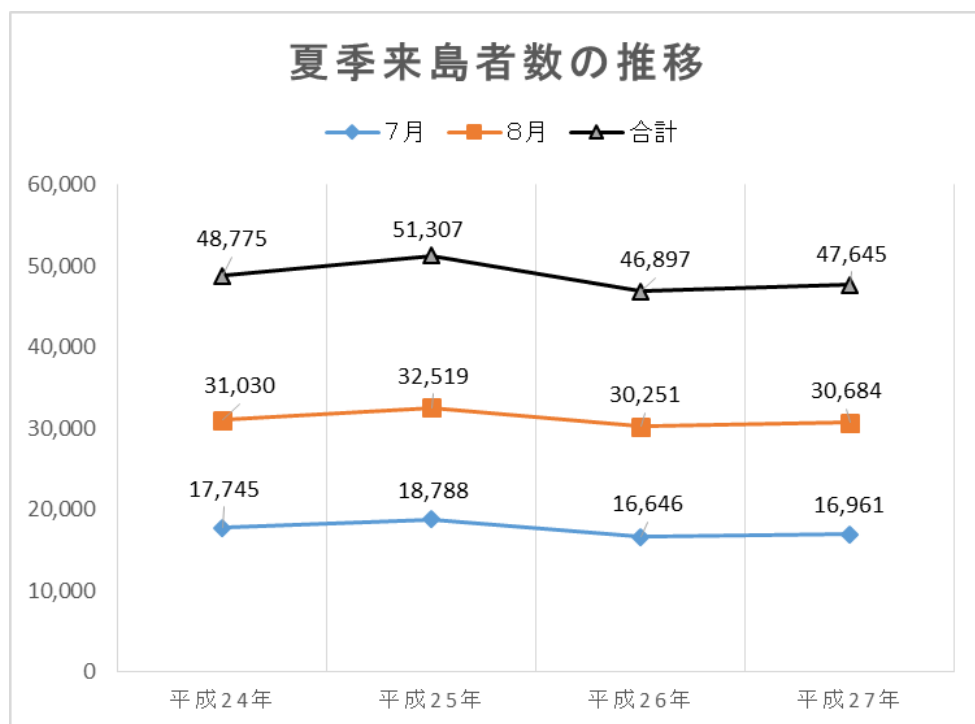
④今後の対応方針

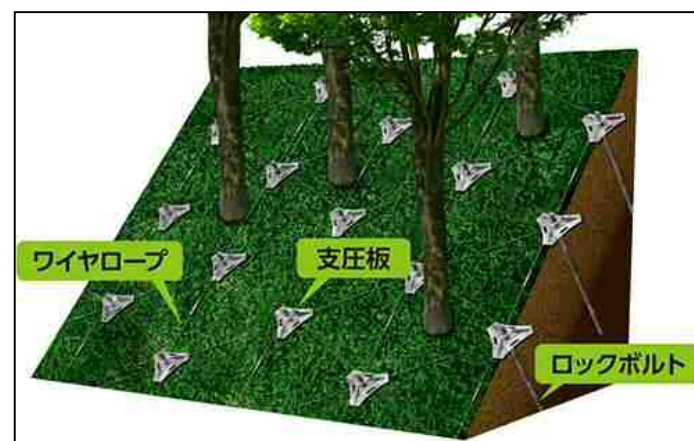
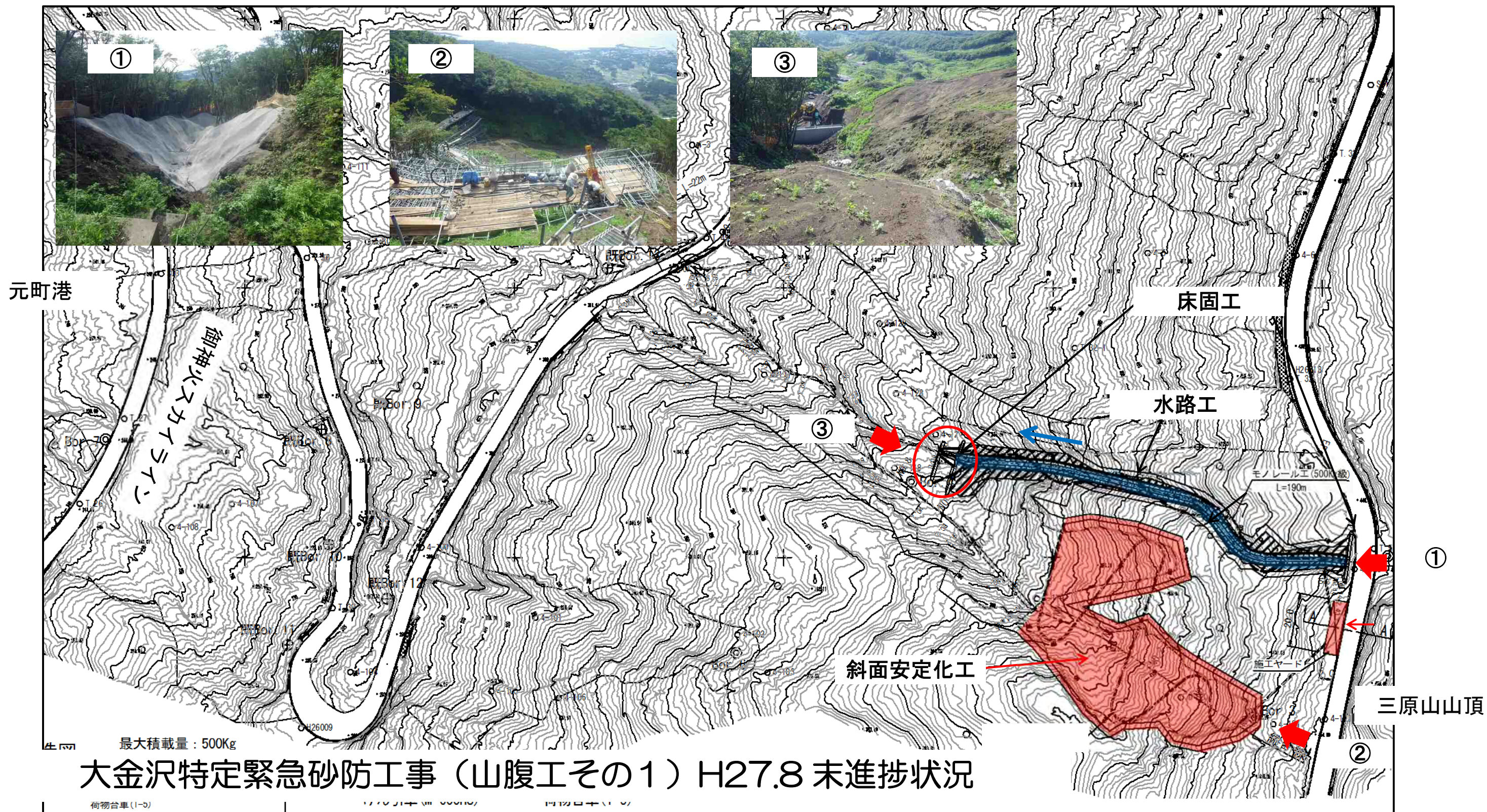
- ・平成27年度より、大島社会福祉協議会生活支援相談員を中心に、総合的相談の見直し、土砂災害復興推進室の復興進捗状況情報とあわせ、個々の被災者の課題を明確にしていく。
- ・発災2年を迎え、さらなる課題の予測（心身：災害ダメージ・ストレス 再建、復興に関することなど）と実務的支援について被災者生活支援連絡会内で研修など行い、スキル向上を図るとともに、支援体制の長期的視点を同時に検討していく。

4) 夏季の観光復興の状況

夏季の来島者数の推移（データ出典：大島町観光産業課）

年 月	被災前		被災後	
	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年
7 月	17,745	18,788	16,646	16,961
8 月	31,030	32,519	30,251	30,684
合計	48,775	51,307	46,897	47,645





斜面安定化工（施工イメージ）

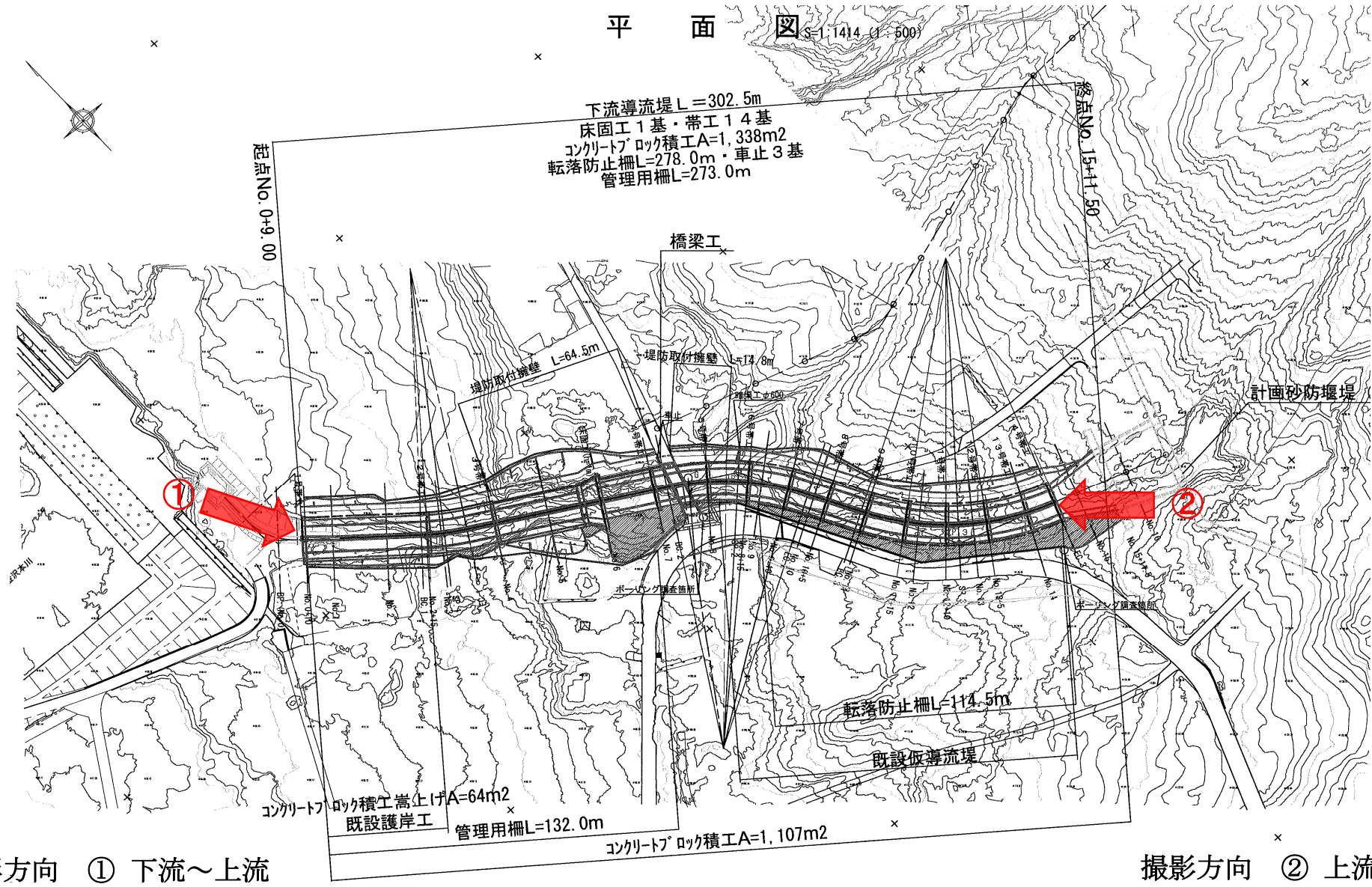


水路工（施工事例）



床固工（施工事例）

施工状況写真（平成27年 8月31日 撮影）



大金沢特定緊急砂防工事（中流導流堤）

